資料 10

予防接種に関する私見～小児科医・市長の経験から～

平成１９年７月９日
厚　生　労　働　省

全国市長会副会長　裾野市長　大橋俊二（小児科医）

① 現在の小学校２年生から高校２年生に対する２回接種の機会の確保について

- 幼稚園（保育園）・小学校・中学校・高校の各入園入学時に、予防接種実施の有無の確認を制度化する必要があると考える。
- 予防接種週間（３月）を年１回から、２ヶ月に１回に変更する。
- 麻しん予防接種を、年齢を問わず無料にする。Ｐ３（予算について）参照

② 麻しん及び風しん患者の全数把握について

- 市町村国保においては、レセプトを１枚ずつ確認すれば、患者数の確保は不可能ではないが、時間と手間を要し、現実的な方法とは言えない。そこで、５年間の時限的措置として、患者発生時に医師が保健所へ報告することを義務付けるように法制化したらいかがなものか。厚労省のリーダーシップにより、実現可能と考える。

③ 予防接種率を上げるための方策について

・夜間休日診療

夜間および休日診療の実施により、接種率のアップが可能。夜間診療を行っていない場合は、医師が夜間救急に連絡しておくなどの連携も有効と思われる。

・情報伝達

予防接種を受ける側にしっかりした情報を流すことが大切。麻しんに罹患し脳炎が起こる確率は、１／１０００であるが、ワクチン接種で起こる確率は１／１００万～１５０万と低率である。

・ マスコミ等の活用

・ 補償体制の確立　P４（医師会の麻しんへの取り組みについて）参照

・ 医師および看護師が外来受診者に対し、積極的に予防接種を勧める。

― 参 考 ―

このたび、首都圏で大流行した麻しんについて、当院（大橋内科小児科医院）の５月２３日～６月４日の１３日間における発生状況を調査した結果、以下のとおりであった。

IgG・HI 抗体検査を受けた者	４２名
MR を接種した者	１１２名
Mのみを接種した者	２４名

（発症例）

５月２４日（木）	三　島	市在住	２４歳	女性
６月　２日（土）	伊豆の国	市在住	２０歳	男性
	裾　野	市在住	２４歳	男性

（考　察）

当市は、北に富士山、東に箱根外輪山、西に愛鷹山、南に駿河湾に囲まれ、自然の要塞のような地形に位置しているため、幸いにも感染症の急激な広がりから一時的に遮断されている。

南方（海）から風が吹く日が多く、伝染性疾患も、富士市や沼津市より数日遅れて発生する傾向があり、市外の他医院から最新の情報を得るように心掛けている。

（予算について）

・ 平成１９年度の小学校１年生は、１８年度の法改正を受けて２回接種となっている。

・ 小学校２～高校２年生まで１学年６００人と計算すると、

600円×10学年 ＝ 約6,000人

現在のＭＲの委託料１４，０７０円で計算すると

6,000人×14,070円 ＝ 84,420,000円

※ただし、日本脳炎予防接種が、現在、原則見合せとなっているため、

１７年度見合わせ分　６００円×２回接種　初回分
　　６００円×１回　　追加分

１７，１８，１９年度となると、５，４００人分の予算が必要となる。

現在の日本脳炎予防接種委託料７，８７５円で計算すると

5,400人×7,875円 ＝ 42,525,000円

◎裾野市規模の自治体で、１億２千万円以上の予算措置が必要となる。

（医師会の麻しんへの取り組みについて）

・平成１６年度から、定期予防接種以外の希望者に対し、「自己負担」ではあるが、「行政措置」として、事故の場合の補償をしている。
（全国市長会保険予防接種Ⅲ型加入）

・１８年度４月当初の改正では、年長児でＭＲ１期を接種していないと、ＭＲ２期を接種できないという法改正であった。（６月２日、更に法改正により単独ワクチンを接種していても、ＭＲ２期可能となる）

・沼津医師会は、急遽、年長児への「麻しん２期」の接種を行政措置で決定したところ、裾野市では６月一ヶ月間で、３５人が接種している。